

## 2018年3月期決算説明会 質疑応答議事録

日 時 平成30年5月16日(水) 10:00~11:00

場 所 日本投資環境研究所 9F ホール

説明者 代表取締役社長 吉貴 寛良

取締役 専務執行役員 経理・財務本部長 大橋 二三夫

執行役員 経理・財務本部副本部長 小木曾 伸一

※ホームページ開示資料「新5ヵ年計画の進捗」の7ページ目を、説明会当日資料より差し替えております。

### ■質問者 A

Q. 2019年3月期営業利益見込みの前年比増減益要因について説明して欲しい。

A. ・増減益要因について、詳細は開示していない。

- ・減益要因について、新規設備投資増加による償却費負担増が約55億円の他、新規プロジェクト立上げに伴うコスト等の発生が見込まれる。
- ・増益要因について、現行品の合理化改善努力、更に新しいモデル切替の付加価値増等がある。

Q. 利益計画の精度はどう見ればいいのか？

A. ・計画上の利益について、年度後半に向かって徐々に大きくなるという傾向はある。

- ・今年度は大きなプロジェクト立上げがあり、これを計画通り進めるよう活動し、利益計画精度を上げる努力をしている。

Q. 今期、設備投資について380億円と相当大きい内容は？ 今後もこのレベルが続くのか？

- A. ・一時的な増加要因として、ホットスタンプの投資で約100億円、インドのグジャラート新会社立上げで約22億円、老朽化設備の更新で約20億円等がある。
- ・通常投資について、今期は大規模なモデル切替があり、金型や溶接設備投資が増えている。

Q. 2020年3月期の設備投資については、どうなっていくのか？

A. ・今年度より投資額は減少すると考えている。

### ■質問者 B

Q. 海外の合理化改善はどうしていくのか？

A. ・今までは日本本社を中心に、仕事のやり方や仕組みを変えてきており、一定の成果を生んでいる。今後はそのやり方や仕組みを海外子会社に展開していく。

Q. インド第2拠点のプロジェクトについて、今期の業績に与える影響は？

A. ・フル生産になるのが2020年のため、今期の影響は軽微である。

以 上